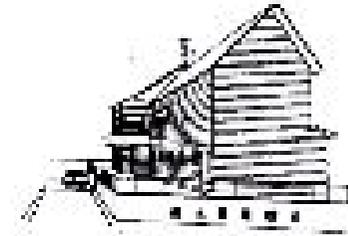


<今朝の聖書から> 私たちは秩序の中に住んでいます。この秩序ですが、安定をもたらす一つの要因に思うこともあります。この秩序が破壊された時、またないがしろにされた時、不安に陥ることもあります。企業や行政の人事でいいますと“異例の昇格”などと呼ばれます。不安に思う反面“アメリカンドリーム”という言葉が想像させるような、社会の秩序が破壊され自分に有利に働くこともまた期待するところがあります。日本にもこれに関わる言葉は沢山あります。“ヒトハタあげる”とか、反対に“長いものには巻かれる”とあって、就職に困ったら有力者に“口利き”を頼んでみたりします。社会での関係というものが、細かく錯そうし、まるで私たちの生活を管理しているかのようです。力関係というのがこれです。今朝の聖書の中には、まったく別のことがイエス様によって語られます。“見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に引きわたされる。そして彼らは死刑を宣告した上、彼を異邦人に引きわたすであろう(10:33)”とあります。弟子たちが力関係のことを問題にしている時に主は“贖罪のわざ”について語られるのです。37節にある“栄光をお受けになるとき、ひとりをあなたの右に、ひとりを左にすわるようにしてください”という、なるほどと思える願いは、“あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない(10:38)”と主に否定され“それは願いではない”と言われてしまいます。神の国において“偉い”ということがあるかないか、それは分からない、もしあるとしても、それを決めるのは神のみである、と主は、二人の願いに対して答えられ、権力欲・名誉欲に埋没した人の不幸を語られます。仕えることの重要性は、“主が仕える方である”ことによっています。自らの為になることには“ひとはだ脱ごう”と考える世の中から自由になった時、そこにあるのは“とりなし”でしょう。御言葉を、今より少しは知りたいと願う人は、同じく“社会の成り行きをくつがえそう”とするでしょう。しかしその理由は、公儀に反するからであり、彼に本来与えられている、神の愛が踏みにじられる時です。誰にでも少しは権威があります。力も財もあります。“日毎の糧”というのはこのことです。これを殺伐とした世の中の為に用いるのか。神への奉仕に用い、豊かな毎日を送るかが語られます。パウロは“愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない(コリ13:4)”と、経験したことがある、あの愛の素晴らしさを語ります。

週報

2010年 3月 21日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042